



第140号 平成30年9月20日発行

総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについてはこちらから
[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>



特集 クラブハウスを活用するクラブ

- ▶▶▶ ふれあい佐布里スポーツクラブ
- ▶▶▶ NPO法人ELF丸亀

特別企画

- ▶▶▶ 総合型クラブでの効率的・効果的な会議の進め方とは？

連載 みんなで盛り上げよう！オリンピック・ムーブメント

- ▶▶▶ NPO法人ふれ・スポ・とうべつ
- ▶▶▶ しろやま倶楽部

助成金情報 ▶▶▶ 詳細

お知らせ ▶▶▶ 詳細

バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

特集

クラブハウスを活用するクラブ

ふれあい佐布里スポーツクラブ ＜愛知県知多市＞

総合型クラブが事務作業等を行うための事務局スペース、会員や地域住民が自由に交流・談話できるサロンスペースを有したクラブハウス機能を確認することにより、地域の誰もが自由に交流できる場を提供することはクラブにとって活動基盤となり得ます。

そこで、既にクラブハウスを活用し、地域づくりや活性化に貢献している事例を紹介します。



1. 小学校が使用していないスペースをクラブハウスに活用
2. 市と学校側の支援で借用料は不要、水道・電気料金は市が負担
3. 学校敷地内への拠点設置で学校での子どもたちの様子をうかがい知れる

1 クラブ概要

平成19年に、知多市の「スポーツ振興計画」が見直された時に「総合型地域スポーツクラブ」を設立する計画が提案されました。その基本方針の一つとして、市内の10小学校区にそれぞれ設立するというのが示されました。それを受けて、まずモデル地区を決定して進めていくことになり、佐布里地区が選ばれました。そこで、当地区では、生涯スポーツ課に勤務していた生涯スポーツ指導員（鰐部）を中心に、地区の各種団体（コミュニティ・老人クラブ・スポーツ委員会等）の役員に呼びかけ、設立準備委員会を立ち上げ、クラブ設立へ向けて動き始めました。委員会では、まず、地区の状況や住民の意識調査を行い、その調査結果を受け、「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽に参加できるクラブを目指す」ことを「理念」とし、活動を始めました。



会員の要望や意見に耳を傾け、誰もが参加しやすい環境をつくることを目的に、開催日・種目・場所・方法等について、協議を重ねてきました。平成21年度に設立し、設立から6年目を迎えた平成26年10月には「生涯スポーツ優良団体」として、文部科学大臣から表彰を受けました。

今年度で設立から10年目を迎え、会員数も設立当時の250名程度から400名を超える人数になり、ここ数年は微増を続けています。活動種目も13種目になり、会員の様々なニーズに応える体制を整えています。日々の活動への参加状況も、1週間(4日間)を通じて、毎週延べ約300人の参加が続いています。

2 小学校の旧用務員室を無料で借用、改装・一部備品調達は自前で

当初、クラブハウスについては設立準備委員会であまり話題になりませんでした。しかし、クラブ設立の準備を進めていくうちに、用具の保管・常時活動・会議室等の観点からクラブハウスを保有することが重要であると考えられるようになりました。また、先進地区(豊田市・北名古屋市等)を見学した時に、どのクラブもクラブハウスを所有し、有効に活用されていることを知り、その必要性を痛感しました。その後、小学校体育館や公民館の会議室、個人の家等を考え検討しましたが、いずれもこれといった決め手がありませんでした。地区内を探している内に、小学校の旧用務員室が、倉庫として利用されているという情報を得ました。実際に見学に行くと、使用できなくなった机やいす、壊れた運動用具等が所狭しと置かれていました。そこで、学校と市教育委員会に借用できないかをお願いしたところ、「倉庫の中をクラブで整理すること」を条件に許可をいただきました。

倉庫の中は、以前に人が住んでいたため、風呂とトイレがあったり、細かな間仕切りがあったりで、クラブハウスとしてはやや機能性に欠けていたため、市にお願いして風呂とトイレを除去してもらうことにしました。細かい間仕切りの撤去・畳の入れ替え・下駄箱の設置等は、会員の有志にお願いしました。エアコン・冷蔵庫・時計・蛍光灯・整理棚等は、クラブで購入しました。事務机・長机・いす等は、学校からいただきました。電話については、当初置いていましたが、使用頻度が低いということで撤去しました。水道料や電気料は、市教育委員会にお願いしたところ、市の予算で賄っていただけることになりました。クラブハウスの借用料と維持経費はほとんど不要ですが、今後は、建物の老朽化に対してどう対応していくかが大きな課題であります。



3 廃屋同様のスペースを再利用→市と学校側が 全面協力

こうした経緯からクラブハウスを保有するまでに苦労した点は、特にありません。市教育委員会がスポーツクラブのモデル地区として当地区に依頼した関係上、市生涯スポーツ課や学校が全面的に協力していただき、保有に関してはスムーズに事が運びました。また、廃屋同様の扱いを受けていたスペースを再利用するということで市当局の賛成も得ることができたと思います。

クラブハウスで行っている具体的な活動

- 体育館で活動する各種目の用具の保管をしています
 - ・放送設備・卓球・バドミントン・ミニテニス・ビーチボールバレー等
- 囲碁・将棋を、毎週火・木・土の午前9:00～11:30まで行っています
 - ・参加人数は、毎回10人～12人程度です
- コーヒーメーカーを活用してコーヒー募金を実施
 - ・できたコーヒーをポットに入れて各活動場所へ運び、参加者に募金制で飲んでもらっています
- 運営委員会等の会議を開いています(月1回程度)
- たより・会員名簿・会員証等の保管をしています

小学校の敷地内に拠点(クラブハウス)を置くことによる特徴・良かった点

- 体育館で活動するための用具等を保管できる
- 印刷・コピー等を学校へお願いに行ける
- 週3日間、クラブハウスで活動することにより、学校での子どもたちの様子が分かる
- 他の施設だと有料になるが、小学校内のクラブハウスではほとんど無料になる



クラブハウス入口



囲碁・将棋(クラブハウス)



4 学校内設置で地域から信頼を得る→会員増の効果も

学校の敷地内にクラブハウスが置かれていることにより、地域の人たちから「信頼できるクラブだな」と思われるようになりました。また、学校公開日や行事等で、来校された方にクラブの存在を認識していただき、実際に、保護者や孫の紹介でクラブに入会したという会員もいます。囲碁・将棋の参加者からは「暑い時や寒い時にクラブハウスで快適な活動ができる。家にいるよりは、充実した1日が過ごせる」という声も出ています。

5 発足当初はクラブ理念・活動内容の周知に苦心

設立へ向けて動き始めた時から市教育委員会・地区スポーツ委員等から様々な支援がありました。その支援をもとに、設立準備委員が自信を持って地区の諸団体(コミュニティ・老人クラブ・民生委員・町内会等)に働きかけることができました。

ただ、市の支援があり、地域団体の役員の協力もありながら、それぞれの団体の個人個人の意識を高めない限り、活動に参加してもらえない実情がありました。回覧板や市の広報でPRしても、なかなか浸透していきませんでした。そこで、各団体の行事や集会に参加して、本クラブの理念や内容をきめ細かく説明しました。特に「継続できる」「できるできないは重要なことではない」「道具はなくても参加できる」ことなど、だれでも、いつでも参加できることを話しました。また、既に参加している方には、自分の周囲の人に話してほしい旨をお願いしました。さらに、スタッフや講師の先生には「技能を高めることも大切だが、楽しく活動できることが最も大切だ」という姿勢で臨んでほしいことをお願いしました。2年目3年目を迎えるあたりから、口コミの効果やスタッフ等の努力により、会員が急増して今に至っています。



6 会員の要望受け止め、活動種目増を目指す

現在、設立から10年目を迎えて、種目数を13種目まで増やしてきました。今後も、会員からの要望や意見を真摯に受け止め、運動・文化にこだわることなく種目数を増やしていきたいと考えています。また、参加者が自宅から徒歩で行けるような場所で活動できるようなシステムやプログラムを考えていきたいと思えます。さらに、クラブの基本姿勢である「参加して楽しく活動できるスポーツクラブ」を継続して進めていきたいと考えています。

(ふれあい佐布里スポーツクラブ 事務局長 鰐部 忠夫)

クラブプロフィール

設立年月日 平成21年4月11日

所在地 愛知県知多市佐布里地区

運営 会員数436名(平成30年7月現在)、予算規模114万円(平成30年度)

男女比=女性63.4% 平均年齢=72.1歳

有給職員 15名(時給100円 1回上限300円)

特徴 高齢者の居場所づくりを目的に、地域住民の憩いの場や触れ合いの場として活動しています。また、スポーツクラブといっても、身体的な活動(9種目)だけでなく、文化的な活動(4種目)も含めた幅広い種目を採り入れて活動しています。さらに、会員であれば、週4日(月・火・木・土)にプログラム化されている13種目のどの活動にも参加できるようにしています。

連絡先 TEL 090-1821-7906(鰐部事務局長)

URL <https://www.city.chita.lg.jp/docs/2014012300384/>

(知多市総合型地域スポーツクラブURL)





ペタンク(梅が丘グラウンド)



グラウンドゴルフ(にしの台2号公園)



囲碁ボール(佐布里会館)



健康麻雀(佐布里会館)



卓球・囲碁ボール(佐布里ダム記念館)



健康体操(小学校体育館)



唱歌・一般スポーツ(小学校体育館)



特集

クラブハウスを活用するクラブ

NPO法人ELF丸亀 ＜香川県丸亀市＞

総合型クラブが事務作業等を行うための事務局スペース、会員や地域住民が自由に交流・談話できるサロンスペースを有したクラブハウス機能を確保することにより、地域の誰もが自由に交流できる場を提供することはクラブにとって活動基盤となり得ます。

そこで、既にクラブハウスを活用し、地域づくりや活性化に貢献している事例を紹介します。



1. JA香川県農業協働組合にアピールし格安家賃のクラブハウスを確保
2. 農協跡地の効果＝地域住民にも親しみやすく、いつでも気軽に集える場所として機能
3. クラブハウス移転で地元行政や教育委員会、体育協会など各団体から信頼を得る

1 クラブ概要

クラブ設立のきっかけは、少子化による児童数減少に伴い、単一小学校区のスポーツ少年団として活動を続けるのが難しくなったことでした。隣接する城西小学校区でも同じ問題を抱えていたため、合同で練習を始めました。その後、丸亀市にも働きかけて、それまでにない校区を超えた合同チームで試合に出場するなど、サッカークラブの活動を充実させていきました。

そうした折に、現クラブ理事長が「総合型地域スポーツクラブ」のことを知り、周囲に働きかけ、スポーツと文化的活動を通して、地域で子どもを育てる環境づくりを狙いとしたクラブを設立することになりました。設立の中心となったのは、前身のサッカークラブの指導者や保護者、そして市内で理科教育に熱心に取り組む教育関係・企業関係の退職者の方々でした。行政等の支援を受けず、地域住民が中心となって立ち上げたクラブであり、設立2年目の平成15年12月にはNPO法人格を取得し、現在に至っています。



クラブ理念は、

E= Everybody みんな(子どもから高齢者までみんなが集う活動)

L= Lively 元気で(生き生きとした活動)

F= Future 未来へ(大きな夢と希望を持って発展する活動)

であり、クラブ名にもなっています。設立当初から大きな変化はありませんが、身の丈に合わせた活動を地道に続けています。現在、スタッフの最高年齢が92歳、平均年齢が70歳となっており、世代交代が課題です。

2 高額家賃がネックとなり、JA農協支店跡地に クラブハウスを移転

クラブ設立当初から、活動の拠点として、またクラブ運営維持費を確保するための教室事業を展開するにあたって、クラブハウスは絶対に必要であると考えていました。クラブ設立総会の半年後には、人脈を駆使して、丸亀市に隣接する善通寺市「kapika」にクラブハウスを置き、活動を始めました。「kapika」は、知り合いの家電店が所有する照明専門の元店舗で、軽量鉄骨2階建て駐車場完備のオシャレな建物でした。しかし、当初は会議が中心であったため、予定していた教室事業を行うことができず、月額20万円の家賃を払い続けることができませんでした。

その1年半後、現在のクラブハウスに移転し、今に至っています。現在のクラブハウスは、丸亀市立城坤小学校の隣にあるJA農協支店跡地(230坪)で、立地条件にも恵まれています。

クラブハウスについては、家賃を支払って保有することを前提に考えていたので、どのようにして格安の家賃で賃貸できるかを第一に考えました。知人の人脈をたどり、非営利活動として社会貢献活動に取り組んでいることをJA香川県農業協働組合にアピールし、現在のクラブハウスを借りることができました。

なお、クラブハウス確保の重要事項としては、「事務所として使用する」、「会議や総会ができるスペースがあり、日常は各種教室として使用する」、「駐車スペース(普通乗用車20台分)を確保できる」、「立地条件」、「少しでも安い賃料」の各項目を満たすべきと考えました。



クラブハウス



3 農協跡地で地域住民から親しみ 備品の保管・管理等で有効利用

JA農協支店跡地に移って良かった点は、もともと農協であったため地域住民にも親しみやすく、いつでも気軽に集える場所として機能していることです。クラブハウスにあるクラブのPCや印刷機、コピー機は自由に使用することができ、併せて各クラブ・教室で使用する備品等をクラブハウスに保管・管理できる点も、喜ばれています。

クラブハウスでは、ダンス、シニアの健康教室、各種文化教室を定期的に行っています。また、小学校の体育施設開放運営委員会の事務局として地域のスポーツ推進に貢献するとともに、J2のカマタマーレ讃岐の丸亀後援会事務所としても活用されています。その他、クラブの理事会・役員会・総会等の各種会議でも活用しています。

4 クラブの信頼度・知名度が向上→ 寄付でマイクロバスを所有

クラブ設立当時のNPO法人と言え、民家の一部屋を事務所にした、公民館や学校施設の一部を間借りして運営するところが多かったと思います。その中で、元の農協支店を丸ごと借りてクラブを運営することで、当初、クラブを遠目に眺めていた地元行政や教育委員会、体育協会などから信頼を得たことは間違いありません。このことを契機に丸亀市と協働して第一回全国芝生サミットや西日本スポーツフェスティバルや全国模型飛行機大会を開催しました。

信頼を得たことにより、クラブが行うイベントに市長、教育長、市議員が来賓として出席していただけます。人が動けば、新聞報道やテレビニュースに取り上げてくれます。クラブ運営スタッフも人物紹介で何人も取り上げていただきました。クラブハウスを所有したことで、クラブに対する信頼度や知名度が向上しました。特に、活動拠点の一つである城坤小学校からの信頼度は大きく、丸亀市や丸亀市体育協会からの信頼も厚いです。さらに、クラブとしての信頼度もアップしたことで、念願だったマイクロバスをロータリークラブから寄付していただくことにもつながりました。このクラブ所有マイクロバスですが、健全な青少年活動に貸出しており、利用団体から感謝の声もいただいています。



5 建物の老朽化や雨漏り対策など修繕で苦勞

当クラブの場合、賃貸料が年間100万円ほど必要になり、それとは別に光熱費もかかります。また、賃貸契約において修繕はクラブ持ちとなるため、建物の老朽化や雨漏り対策などで苦勞しています。

6 課題は更なるクラブ活性化 災害時支援拠点も目指す

クラブの課題として、今後は以下の2点が重要と考えております。

- ①クラブハウスでの活動の更なる活性化を図り、地域住民がもっと気軽に集える場所に
していくこと
- ②地域における、災害時の支援拠点として、防災に関する整備を充実させていくこと

今後、学校部活動の新たな動きを踏まえ、クラブハウスの役割や活用方法に更なる期待が寄せられるように思われます。このようなことを含め、クラブハウスの整備に活用できる補助金等がより充実することを願っています。

(香川県クラブアドバイザー 山家 春香)

クラブプロフィール

設立年月日 平成14年4月1日(平成15年12月に法人格取得)

所在地 香川県丸亀市城坤・城西地区

運営 会員数194名(平成30年3月現在)、予算規模406万円(平成29年度)

有給職員 0名(全てボランティアで運営)

特徴 「スポーツと文化を通して、子どもを育てる環境づくり」を目的に設立。定期活動として、少年・少女サッカー、ソフトテニス、ダンス、体操の運動系4種目に加え、サイエンス、そろばん暗算、書道硬筆、美術造形、韓国語の文科系5教室も実施しています。その他、「全国模型飛行機大会」を15年連続開催、「丸亀なでしこスマイルサッカー交流大会」を主幹、公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)による南米5カ国視察団受け入れなど、多岐にわたる活動を行っています。平成24年に香川県教育文化功勞者表彰、同25年に文科省生涯スポーツ功勞団体表彰を受賞。

連絡先 〒763-0054 香川県丸亀市中津町861番地 NPO法人ELF丸亀事務局
TEL 050-8803-6737 (つながらない場合:090-6883-6546<理事長携帯>)
FAX 050-8803-6737
E-Mail elf-maru@mxi.netwave.or.jp URL <http://elf-marugame.com/>





JOCA研修(クラブハウス)



JOICA研修(クラブハウス前)



サイエンス教室



そろばん暗算



健康教室



老人の健康体操



特別企画

総合型クラブでの効率的・効果的な会議の進め方とは？

総合型クラブの運営において、会議を効率的・効果的に運営することは必要不可欠です。そこで今号では、効率的・効果的な会議の運営方法を紹介し、全国の総合型クラブが、より円滑にクラブ運営を実践できるよう、ホワイトボード・ミーティング®認定講師の河北純子氏に「総合型クラブにおける効率的・効果的な会議の進め方」について解説していただきます。

1 総合型クラブ会議の課題

7年ほど滋賀県にてクラブアドバイザーを務め、その間には総合型クラブの会議や行政と総合型クラブとの合同会議等、200近くの会議を見てまいりました。総合型クラブの会議は、クラブ理念を共有し、同じベクトル(方向)を目指す会議ではありますが、メンバーは年代やキャリア、立場など様々な人たちが出席します。そのため、目指すベクトル(方向)が同じでありながら、それぞれの思いがあり、なかなか方向性が決まらない時があります。

時として、一部の力の強い意見に巻き込まれて進んでしまいます。住民参加で全員が対等な立場で発言することを求められる総合型クラブの会議の運営・進行は、会社組織よりも難しいのかもしれません。

2 会議の明瞭化・効率化を促すホワイトボード・ミーティング®

ホワイトボード・ミーティング®という言葉をご存知でしょうか。会議の席にホワイトボードを設置し、発言者の意見をホワイトボードに書く会議手法です。株式会社ひとまちの代表が15年ほど前に日本で初めて体系化した手法です。発言者の意見を次々とホワイトボードに書き込んでいきますが、発言者の名前は書きません。そうすることにより「誰々の意見」という意識が徐々に薄れていくため、誰が発言したかということに左右されにくくなるという効果が生まれます。



ホワイトボード・ミーティング®の様子

また、参加者それぞれに都合もあり、会議の開始時間に全員がそろうのは難しい場合、遅れてきた方は、それまでの流れが分からず発言しにくいものです。しかし、この方法だと後から参加された方も、ホワイトボードを見て確認すれば会議の流れを把握できるメリットがあります。

3 ファシリテーションのコツと心得

良い会議に導く進行役を「ファシリテーター」と言います。何らかの事柄を円滑に進むよう促進する働きを「ファシリテーション」と言い、そのために働きかける人が「ファシリテーター」です。

ファシリテーターは、全員が発言しやすいよう環境調整役に徹します。基本は、自分の意見を言いません。出た意見をジャッジしたり、否定せず、まずはいったん「ナルホド」「そうですね」「そういう考え方もありますね」など、受け止めてホワイトボードに書きます。一部の人に発言が偏る時には、「ペアになって話してみましよう」と参加者が発言しやすい流れを作ります。

ポイントとして、ファシリテーターはいつも同じ人ではなく、交代制を採用してみてください。順番にファシリテーターを務めると、みんなで同じ方向を目指そうという意識が高まります。みんながホワイトボード・ミーティング®を日頃から練習するのが効果的です。

また、冗長な会議にならないためにも、会議の約束事やルールを決めます。特に大事なものは時間の厳守です。会議の開始時間と終了時間を守ることからチャレンジしましょう。終了時間をきっちり守れば、会議後に予定がある人も参加しやすくなり、出席率の向上にもつながります。

4 会議チェックシートの活用も有効

新しい会議の方法を試す前には、現状の課題分析も大切です。効率的で効果的な「元気になる会議」を目指すためにも、「会議25のチェックシート」の活用をお勧めします。まずは健診のつもりで気楽に試してください。



ホワイトボード・ミーティングでめざそう！
みんなの意見が活かされる。効率的、効果的な「元気になる会議」

まずは、会議 25 のチェックシート

あなたが参加する会議を1つイメージして、直感で答えましょう！

- | | | | |
|--------------------------|----|-----------------------------------|-----------|
| <input type="checkbox"/> | 1 | 会議はいつも時間通りに始まり、時間通りに終わる | (信頼構築) |
| <input type="checkbox"/> | 2 | 会議の冒頭、目的(ゴール)を文字で明確に共有している | (意義確認) |
| <input type="checkbox"/> | 3 | 席の配置は、意見が出やすいように工夫している | (会場デザイン) |
| <input type="checkbox"/> | 4 | 資料やレジメを読み上げるだけでなく、議論と決定がある | (生産性) |
| <input type="checkbox"/> | 5 | 「最初から結論が決まっている」ということはない | (創造性) |
| <input type="checkbox"/> | 6 | 発言者の偏りはない | (安全管理) |
| <input type="checkbox"/> | 7 | 進行役は全員の意見を引き出すことを大切にしている | (公平性と承認) |
| <input type="checkbox"/> | 8 | 全員に発言の機会が用意されている | (場への貢献保障) |
| <input type="checkbox"/> | 9 | 場がダラダラしたり、静まらないように工夫している | (設計) |
| <input type="checkbox"/> | 10 | 私語はない。眠たそうな人もいない | (環境構成) |
| <input type="checkbox"/> | 11 | 話は確実にゴールに向かっていく(堂々巡りはしない) | (進捗管理) |
| <input type="checkbox"/> | 12 | 参加者同士が信頼関係を感じ合っている | (チームワーク) |
| <input type="checkbox"/> | 13 | 新しいアイデアや意見を歓迎する雰囲気がある | (創造性) |
| <input type="checkbox"/> | 14 | 会議の決定は尊重される(結論が終了後に変わらない) | (意思決定) |
| <input type="checkbox"/> | 15 | 会議の決定にみんなが納得している(終了後に文句はない) | (合意形成) |
| <input type="checkbox"/> | 16 | 会議で決まったことは、ちゃんと実行されている | (実効性) |
| <input type="checkbox"/> | 17 | 会議終了後、書面で記録を共有している | (記録の共有) |
| <input type="checkbox"/> | 18 | 参加者の間で、言葉の意味を共有できている(対象者理解、異文化理解) | |
| <input type="checkbox"/> | 19 | 適度な休憩や笑いがある | (リラクセス) |
| <input type="checkbox"/> | 20 | 会議終了時、決定事項と未決定事項を確認している | (到達点の確認) |
| <input type="checkbox"/> | 21 | 常にエンドユーザー(最終利益享受者)を意識した運営を心がけている。 | (意義確認) |
| <input type="checkbox"/> | 22 | 成果をみんなで共有している | (達成感) |
| <input type="checkbox"/> | 23 | 会議の設計図を描いている | (設計) |
| <input type="checkbox"/> | 24 | 企画書やレジメが提出されている | (設計) |
| <input type="checkbox"/> | 25 | 会議の回数や頻度、長さ、参加人数は適当である | (効率性) |

●はいの数

25~21個 健康な会議です。他の人にもチェックをお願いしましょう！

20~16個 あとひと工夫です！

15~11個 一番、会議疲れを感じています。大丈夫、方法があります。

10個以下 やれることがいっぱいです！希望をもって進みましょう！

©株式会社ひとまち <https://wbmf.info/>

いかがでしたでしょうか。「はい」の数が少なくても大丈夫です。会議の手法を一気に改革するのは難しいものです。「時間厳守」から始めるなど、少しずつ改善していくことが肝要です。私は「会議は文化」だと思っています。ですので、いきなり変えるよりもスモールステップで向上を図ってください。



5 会議の目的を明確に

意見がまとまらない会議では、会議の目的がしっかり定まっていない場合が多く見受けられます。会議にも色々な種類があります。報告事項だけの会議、議論して何かを決定する会議、交流を大切にする会議…。会議の目的をはっきり冒頭に示すことが大切です。会議資料が多い時は、事前にメンバーに告知しましょう。会議冒頭では、ポイントを絞った説明をして、意見収集へと進みます。

総合型クラブに合った会議のルール化(参考例)

- ① みんなでファシリテーターの練習をしよう
- ② クラブ・地域の利益がwin-winになる話し合いをしよう
- ③ 日頃から、親睦や交流を大切にしよう
- ④ 話し合いのゴールを明確にしよう
- ⑤ みんなの意見をホワイトボードに書いてまとめてみよう
- ⑥ 役割分担をしながら、チームプレイで進めてみよう

会議の進め方に関し、私たちは学校教育で学ばずに、経験則や我流で進めてしまいがちです。そうならないためにも、上記の例を参考に、みなさんのクラブに合った会議のルールを定めてください。

6 「心の体力」を温めるコミュニケーションを大切に

ここまで効率的・効果的な会議の進め方について説明しましたが、忘れてはならないのがコミュニケーションです。体に体力があるように、心にも「体力のようなもの」があります。体は「強い、弱い」と表現するように、心は「温かい、冷たい」と表現するのがぴったりします。「心の体力」が温かい時には意欲的に「頑張ってみよう！」という気持ちになります。心が冷えている時は「頑張るのは無理」というように後ろ向きになり、不安が高まると、自分や相手を傷つける言動や試す行動をとるなどの不穏な行動に出てしまうものです。みんなの心が温かく、元気になることが大切です。そのためにも、心が冷えている人がいたら周囲が温かい目と言葉でカバーしましょう。

小さくてもいいから日頃からコミュニケーションを取る意識が大切です。日常のコミュニケーションの積み重ねによって「心の体力」を温めていきましょう。



河北純子(かわきた じゅんこ)

ホワイトボード・ミーティング®認定講師

大学でスポーツ、クラブコーディネートを教える傍ら、ファシリテーターとして活動。スポーツチームにおけるコミュニケーションカアップやチームビルディングに取り組む。また、市民活動、まちづくりなどの会議を支援するスーパーバイザーとして活動。教育現場では、ホワイトボード・ミーティング®を活用した授業や学級経営の進め方を提案している。





連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

国際交流事例紹介



NPO法人ふれ・スポ・とうべつ ＜北海道石狩郡当別町＞



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、「NPO法人ふれ・スポ・とうべつ」が実施している国際交流の事例を紹介します。

当別町・レクサンド市姉妹都市提携30周年記念事業 ～スポーツ交流～

実施日時	平成29年10月26日(木)～30日(月) ※スポーツ交流は29日(日) 13:00～15:00
実施会場	当別町総合体育館・あいあい公園
参加者数	150名(内訪問団60名)
主催	姉妹都市提携30周年記念事業実行委員会



1 企画経緯

スウェーデン・レクサンド市との姉妹都市提携30周年記念事業を開催するにあたり、上記実行委員会内にいくつかの部会が設けられ、文化・スポーツ青少年交流部会の部会長を、町体育協会事務局長兼当クラブ事務局長が務めることになりました。



2

実施内容

スウェーデン訪問団16名も参加し、武道・スポーツ吹矢を町民と一緒に体験

スポーツ交流では、あいあい公園を会場にパークゴルフ大会を開催し、訪問団16名と当別町民29名の計45名が参加し、コミュニケーションを取りながらプレーを楽しみ、訪問団からはホールインワンも出るなど大変盛り上がりました。

総合体育館では、日本の武道である弓道、剣道、柔道の見学、スポーツ吹矢の体験をしました。剣道では実際に竹刀を持ち、防具をつけた剣道連盟指導者に対して打ち込みをしたり、弓道でのゴムバンドを使った弓引きの模擬体験のほか、スポーツ吹矢では実際に的に向かって矢を放つ体験をして、矢が的に当たるたびに歓声が上がっていました。



レクサンド30周年記念事業
剣道体験で竹刀を持って打ち込み。気迫の一刀！



レクサンド30周年記念事業
弓道でゴムバンドで弓引き体験。静寂の中で真剣に取り組んでいます。



レクサンド30周年記念事業
日本発祥のニュースポーツ「スポーツ吹矢」で、忍者気分。日本の礼儀と作法を重んじる競技を体験。



2018年ワールドユースジャパン 国際・多文化交流プログラム内 ふれあいスポーツ国際交流

実施日時	平成30年7月16日(月) 13:00~15:00
実施会場	白樺コミュニティセンター
参加者数	米国人高校生3名、リーダー1名 ホームステイ受け入れ家族10名 キッズインターナショナル生(当別町内小学生)10名 講師3名
プログラム	
主催団体	米国NPO法人スチューデント・ディプロマシー・コア
国内受入団体	NPO法人ワールドユースジャパンとうべつ実行委員会
後援	当別町教育委員会

1 企画経緯

米国のNPO法人が将来有望な高校生を対象として実施している国際・多文化交流事業の受け入れ先の一つとして、当別町は4回目の受け入れとなります。体験交流事業の一つとして当クラブにスポーツ交流事業の開催を依頼され、実施することになりました。

2 実施内容

米国の高校生や町内小学生らがボッチャなど3競技を体験

当クラブ所属サークルの協力を得て、スポーツ吹矢、ボッチャ、フライングディスクの体験を行いました。3グループで30分ずつローテーションすることで、全員が全ての種目を体験することができました。また、ホストファミリーとの交流はもちろん、町内のキッズインターナショナルで英会話に親しむ小学生の参加もあり、にぎやかで楽しい時間を過ごすことができました。





ワールドユースジャパン
 フライングディスクを輪に投入する「アキュラシー」競技。
 輪の中に入れるのは、中々の至難技です。



ワールドユースジャパン
 パラリンピック競技のボッチャを体験。
 ルールがわかるとゲームにも熱が入って、球の行方に
 一喜一憂でした！



ワールドユースジャパン
 スポーツ吹矢を体験。
 筒を吹いて矢が的に当たる瞬間は気分も爽快！

3 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

姉妹都市交流で武道を体験した参加者からは、これまで関心はあっても実際に競技に触れたのが初めてだったため、「大変感激した」との感想を頂きました。また、スポーツ吹矢は「忍者」を連想するらしく、思いがけないところで日本らしさを感じてもらえた様子でした。

スポーツは、多少言葉が通じなくても身振り手振りでルールなどを伝えることができます。また、できた喜びなども共有できることから、どの事業の参加者からも「楽しかった！」という声を多く聞くことができました。

運営者の声(実施後)

最初に国際交流のお話を頂いたときは、正直言葉の壁などから抵抗を感じていましたが、何度か受け入れをさせて頂くうちに、参加の方々が喜んでくれる姿がとても励みになりました。交流事業の中には、文化交流や伝統芸能に関するものもありますが、一緒に汗を流し楽しむことができるスポーツ交流が一番喜ばれていたのではないかと感じます。



競技のノウハウが国際交流に生きる

当クラブは障がい者スポーツの指導者養成や活動支援にも力を入れて取り組んでおり、ボッチャやフライングディスクなど、誰でも簡単に取り組むことのできる競技のノウハウがあったことが、国際交流事業のスムーズな受け入れにつながったと感じています。

今後も、自分たちの取り組みに自信を持ち、国際交流に限らず様々な要望に対し、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

地方で東京2020大会を盛り上げるために

(長谷川敏NPO法人ふれ・スポ・とうべつ事務局長より)

東京オリパラの実態を知ってもらうことが一番だと思います。東京都内に限らず、地方の学校でもオリパラに関する授業を行うなどの取り組みが必要です。クラブからどんなにオリパラを発信しても周知には限界があります。学校・職場に関係者が入り込んで、具体的にアピールするような環境で実態を知ってもらえるような仕掛けがあればと感じています。

当別町総合体育館はウィルチェアーラグビーの練習会場となっており、実践さながらの迫力ある練習が行われています。ハイレベルの選手が身近で練習していることをもっとPRすることも必要なことと思います。

(北海道体育協会クラブアドバイザー 熊耳 雅美)

クラブプロフィール

設立年月日 平成22年3月22日（法人格取得）平成26年6月13日

所在地 北海道石狩郡当別町白樺町2792番地

特徴 平成28年度より総合体育館ほか2施設の指定管理を受け、「いつでも、どこでも、だれでも」をモットーに各種スポーツ事業を展開中、「ふれスポ」の愛称が町民にも浸透してきました。

体力や身体能力の向上を目的に、スポーツ好きな子供の育成とバドミントンや水泳など技術向上を目指すメニューのほか、マナーキッズプログラムを教育委員会と連携のもと、小学校に導入し礼儀と体幹運動の大切さを子供たちに伝えています。フィットネスや健康づくりメニューの提供やトレーニングマシンの充実で、これまで総合体育館とは無縁だった町民も参加する機会が増えています。

障がい者スポーツに関しては、ボッチャやフライングディスクで全国大会に選手を輩出するほか、健常者や子供、高齢者等のスポーツ交流においても一緒に楽しむ機会を提供しています。

連絡先 〒061-0233 北海道石狩郡当別町白樺町2792番地 当別町総合体育館内

TEL 0133-22-3833 FAX 0133-22-3832

E-Mail info@tobetsu-gym.jp





連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント事例紹介



しろやま倶楽部 ＜東京都世田谷区＞



オリンピック・パラリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、東京都世田谷区の「しろやま倶楽部」が実施しているオリンピック・パラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

「オリンピック・パラリンピックプログラム」の概要

しろやま倶楽部フェスティバル

(フェスティバルの中でオリンピック・パラリンピックプログラムを実施)

実施日時 第10回 平成28年10月23日(日)
11回 平成29年12月 3日(日)
12回 平成30年10月28日(日) *今年度の詳細は[こちら](#)から

実施会場 世田谷区立城山小学校

実施競技 第10回 陸上(藤光選手と走ろう!!)
11回 空手道演武 ポッチャ
12回 空手道演武 ポッチャ

フェスティバル

参加者数 第10回 約600名
11回 約800名
12回 約800名(予定)

主催 しろやま倶楽部

協力団体 (公財)東京都スポーツ文化事業団、世田谷区、(公財)世田谷区スポーツ振興財団、城山小学校、国土館大学、梅丘地区町会自治会連合会、世田谷区スポーツ推進委員協議会、梅丘地区社会福祉協議会ほか

協賛団体 梅丘・豪徳寺・山下・世田谷駅前・松陰神社通り松栄会の各商店街振興組合、国土館大学ほか



1

企画経緯

平成19年に世田谷区4番目の総合型地域スポーツクラブとして北沢地区に「しろやま倶楽部」が設立され、当初、8種目開設から始めた活動クラブは空手道、健康体操、親子体操、フットサルなど17種目になりました。日常生活の中でスポーツや文化活動に親しみ、その活動を通して子どもから高齢者まで誰でも、いつでも気軽に楽しめ、健康で生き生きと充実した生活を送れることを目指しています。

2020年に東京でオリンピック・パラリンピックの開催が決まり、倶楽部内で「何かオリンピック・パラリンピックを盛り上げるイベントができないか」という声が出て、しろやま倶楽部が平成19年から主催している「しろやま倶楽部フェスティバル」の中でイベントを展開しようという機運が高まりました。

平成28年の第10回フェスティバルで初めてオリンピック・パラリンピックプログラムを実施、リオデジャネイロ・オリンピック陸上男子200メートル日本代表の藤光謙司選手をお招きし、「藤光選手と走ろう！！」を企画いたしました。当日は小学生から大人まで約100人が参加し、藤光選手と一緒に走る体験をしていただきました。

また、平成27年7月から空手道クラブを開設しており、2020年の東京オリンピック競技に空手が採用されたことから、昨年（平成30年）の第11回フェスティバルで空手道の体験会だけではなく、演武発表実施、「形」「組手」競技の紹介を行いました。さらにパラリンピック競技の実施も検討し、子どもから高齢者まで一緒に競技を楽しめるポッチャを採用しました。

2

企画内容

空手道クラブで指導している大学空手部員が演武を披露

空手道クラブを立ち上げた当初の参加者は7～8人でしたが、約3年が経ち、現在は50人を超える人気クラブに発展しています。国士舘大学職員の大木陽悦さんが熱心に指導にあたり、同大学の空手部員にも協力いただいております。昨年のプログラムでは大学空手部員3名による空手道演武を披露していただき、多くの来場者の方々に空手の魅力を感じ取っていただけたと思っております。

演武を指導していただいている大木さんは「オリンピック競技に空手が採用されたので、世田谷で空手を広めたい気持ちでやっています。以前は空手の知名度は低かったのですが、最近ではメジャーになりつつあります。誰でも参加できる環境になっているので、サッカーや柔道などの人気競技の仲間入りができたような気がします」と笑顔で語ってくれました。倶楽部のフェスティバルを通して、空手愛好家がさらに増えることを期待しています。



幅広い年齢層がボッチャを体験、今年は障がい者も参加予定

ボッチャの存在はリオパラリンピックをきっかけに知られるようになりましたが、リオの前から世田谷区内では、スポーツ推進委員の方の発案でボッチャ体験会が実施されていました。その後、北沢地域のスポーツ推進委員の方から「倶楽部としてニュースポーツを展開しているなら、ボッチャをやってみたら」とお声掛けいただき、クラブ間会員交流として実施し、フェスティバルでも実施に踏み切りました。

狭いエリアで幅広い年齢層の方々が一緒に楽しめるボッチャは、フェスティバルのイベントに最適でした。自由参加形式を採ったところ、多くの子どもたちがボッチャを自ら体験し、年配の方々にも積極的に参加していただきました。

フェスティバルでは、社会福祉協議会とも連携し車いす体験を進めています。

第12回の今年は、地域のデイサービス事業を行っている団体、作業所にもお声掛けしています。車椅子を利用されている方にもぜひ体験していただきたいと思っております。

フェスティバルでは、障がいの垣根を外して、子どもから高齢者まで一緒にボッチャを楽しんでいただけることを願っています。

3 第11回フェスティバル参加者・運営側の声（ボッチャ）

参加者の声（実施後）

- 家族で楽しめました。（30歳母親）
- みんなで協力することができて良かった。（小学校3年生女子）
- 年齢・性別に関係なくチームでプレーできるところが良い。（70歳代男性）
- 来年もフェスティバルに行きたい。（小学校1年生男子）
- 楽しそうでしたね。（教員）

運営者の声（実施後）

- 地域のみなさんの交流の場になっている。
- 人と人との関わりが広がっている。
- ボッチャは誰がやっても「楽しい」と言ってくれる。



4

倶楽部として東京オリパラを応援

オリンピック・パラリンピックプログラムを開始するにあたって、特段苦心することはありませんでした。当倶楽部の采澤睦子会長の言葉を借りますと、「あれこれ考えず、みんなでやれば何とかなるみたいな感じでやっておりますので、苦労したというような感覚はありません」。倶楽部スタッフみんなで協力し合って、フェスティバルの運営ができています。

空手とボッチャの実施は今年で2回目ですが、来年以降もこの2競技はオリンピック・パラリンピックプログラムとして続けていく予定です。東京2020大会に向け采澤会長は「オリンピックとパラリンピックで空手会場とボッチャ会場のスタンドがいっぱいになるよう、倶楽部として応援・働きかけをしていく必要があります」と熱く語っています。

今回メールマガジン執筆の機会をいただき、オリンピック・パラリンピックムーブメントへの貢献に弾みがつきそうです。当倶楽部のプログラムに興味を持たれた方々のご来場を心よりお待ちしております。

(しろやま倶楽部 事務局長・クラブマネジャー 篠崎 律子)

クラブプロフィール

設立年月日	平成19年3月10日
運 営	会員数416名(平成30年月5末現在)、予算規模235万円(平成29年度)
特 徴	城山小学校を主な活動拠点とし、地域の人たちのスポーツ・文化活動を通して「児童・生徒の健全育成」と「豊かな地域コミュニティの形成」を目指す活動を目的としています。
活動クラブ数	17クラブ(運動系12、文化系5)
活動場所	世田谷区立城山小学校、世田谷中学校、山崎小学校、ほっとスクール城山
事 務 局	〒154-0023 東京都世田谷区梅丘2-1-11 区立城山小学校内
連絡先	TEL/FAX 03-3428-1482 E-Mail info@shiriyama-club.org





ボッチャにトライ!



国士館大学生による迫力の空手道演武



空手クラブの子どもたちとバチリ!





助成金情報

YMFSスポーツチャレンジ体験助成

【実施団体】（公財）ヤマハ発動機スポーツ振興財団

アスリート、指導者、審判、スポーツジャーナリストなど、スポーツに関連する幅広い分野から、我が国のスポーツの普及・振興や競技水準向上につながる、高い志、明確な目的・目標、そして具体的なプロセスを持ったチャレンジスピリット、フロンティアスピリットにあふれる人に対して助成を行うことにより、世界にはばたく逞しい人材を育成することを目的としています。

※講習会やイベント開催などの普及活動、施設・団体などの運営活動、スポーツ少年団等の指導などは、助成対象外とします。

【申込期間】 平成30年9月1日(土)～10月31日(水)正午

申請フォームにて、「電子申請」を行います。

<http://www.ymfs.jp/project/assist/13th/experience/>

スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム

【実施団体】（公財）住友生命健康財団

地域に根差し、スポーツを通じて諸課題に取り組む活動をしている団体に助成します。

【申込期間】 平成30年9月10日(月)～10月10日(水)必着

応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入した応募企画書を作成のうえ、配達記録の残る手段で郵送します。

<http://www.skzaidan.or.jp/>





お知らせ

日本スポーツ協会情報

平成30年7月豪雨災害義援募金へのご協力について

日本スポーツ協会では、加盟団体等関係者の皆さんと協力して、被災された方々を支援し、被災地におけるスポーツ活動が1日でも早期に再開できるよう、義援金の募集を行っております。

振込先や取扱期間等の詳細はこちら

<http://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=3789>

スポーツを愛するすべての人へ <日本スポーツ協会会長メッセージ>の発信

日本スポーツ協会は、昨今、スポーツ界において発生した各種事案により、文化としてのスポーツの価値が脅かされていることを受け、本会としての考え方を改めて示すため、メッセージを発信しました。メッセージは概要版も作成しております。

是非、各方面で掲出いただくなど、より多くの皆さまにご一読いただけるようご協力をお願いいたします。

<http://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=3770>

イベント情報

ブロック別クラブネットワークアクション2018開催

【日本スポーツ協会総合型地域スポーツクラブ全国協議会 主催】

総合型地域スポーツクラブ関係者が抱える課題解決の糸口を探るための情報の共有化や、クラブ育成支援のためのネットワークの強化を図ることなどを目的として全国9ブロックでクラブネットワークアクションを開催します。

詳細・参加申込はこちらから

※申込受付中ブロック:北海道、東北、関東、九州

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/508/Default.aspx>



平成30年度総合型地域スポーツクラブ ヒューマンエラー防止研修会開催

本研修会は、心理的アプローチからリスクマネジメントを学ぶことで「ヒューマンエラー（事故や損害の原因となる人為ミス）」の防止に係る意識の啓発を図り、安全・安心なクラブ経営に資することを目的に開催しています。

平成30年度の開催会場はこちら

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid1073.html>

幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及講習会開催

日本スポーツ協会（日本スポーツ少年団）が平成26年度に作成した、幼児及びその保護者等を対象にした活動プログラム「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」の効果的な活用法を周知することを目的に、地域のスポーツ少年団関係者等を対象とした講習会を開催します。

開催日時・場所・申込方法等詳細については以下のURLを参照ください。

<http://www.japan-sports.or.jp/club/tabid1061.html>

第73回国民体育大会 福井しあわせ元気国体

9月29日から第73回国民体育大会「福井しあわせ元気国体」が開催されます。

日本スポーツ協会では、国体の魅力を全国津々浦々に伝えるべく、国体応援サイト「#国体fan」を公開しています。

サイトには、AKB48チーム8からの各都道府県への応援メッセージや、話題性のある選手の情報、国体・スポーツに関する豆知識（トリビア）の掲載など、大会をより楽しんでいただくためのコンテンツを展開しています。

本サイトを通じ、ぜひ国体の魅力を感じてください!!

#国体fan

<http://www.kokutaifan.japan-sports.or.jp/>



フェアプレイ情報

フェアプレイエピソード募集

「日本フェアプレイ大賞2019」エピソードを募集します。
スポーツ現場であなたが実践した「フェアプレイ」、あなたが見た「フェアプレイ」、
感動した「フェアプレイ」など、みんなに伝えたいフェアプレイエピソードをお送りください。
応募されたエピソードの中から「日本フェアプレイ大賞2019」作品を選ばせていただきます。

【エピソード募集期間】平成30年5月21日(月)～12月31日(月)

フェアプレイエピソード 投稿ページ

<https://fairplay.japan-sports.or.jp/>

日本フェアプレイ大賞2018 大賞作品のマンガはこちらから

http://www.japan-sports.or.jp/portals/0/data0/fair/inc/pdf/news/news_vol095.pdf

ラグビーワールドカップ2019™日本大会情報

来年、アジアで初、ラグビー伝統国以外で初となるラグビーワールドカップが、
この日本で開催されます。

世界最高峰のラグビーをぜひお楽しみください。

開催期間	2019年9月20日(金)～11月2日(土)
参加チーム	20チーム 前回大会成績によって出場権を獲得しているチーム:12チーム 予選によって出場権を獲得するチーム:8チーム
試合形式	プール戦 5チーム×4プール(プール内総当たり戦):40試合 決勝トーナメント 準々決勝/準決勝/3位決定戦/決勝:8試合
試合会場	日本全国12会場
開催都市	札幌市、岩手県・釜石市、埼玉県・熊谷市、東京都、神奈川県・横浜市、 静岡県、愛知県・豊田市、大阪府・東大阪市、神戸市、福岡県・福岡市、 熊本県・熊本市、大分県

大会の詳細はこちら

<https://www.rugbyworldcup.com/>

チケットの情報はこちら

<https://tickets.rugbyworldcup.com>

